

TEISO TOYOKA NEWS

2016年3月号 VOL.86

企画・発行：(株)テイソトヨカ 四日市技術研究所
掲載している記事の無断使用を禁じます。

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

冬の終わりを感じて目覚める虫たち ～特にハエについて～

最近気温が上がったり下がったりと春になったのか、冬はまだ続いているのか、体感しづらいです。さて、今年3月5日が「啓蟄(けいちつ)」でした。「啓蟄」は24節季の1つで「冬籠りをしていた虫が這い出してくる」という意味があるそうです。まだ気温は不安定ですが、良く観察するとそれまで見かけなかった虫たちが活動し始めているのを見かけます。特に目につくのが、蚊柱を立てているユスリカです。啓蟄を境に街灯や部屋の照明に群がっているのを見かけるようになります。私の偏った見方かもしれませんが、昆虫類の中で我先に動き始めるのはユスリカを含めたハエ目のグループではないでしょうか？ちなみに、ハエ目とはどんなグループか？“ハエ”が含まれるのはわかるけど他にどんな種類がこのグループに含まれるのか、ご存知ない方もいると思います。

ハエ目に含まれる昆虫は一般に知られている昆虫の中でも特に形態・生態がバラエティーに富んでいます。例えば、カと大型ハエ類は同じハエ目なのですが、姿形・生活スタイルが全く異なるため、同じグループとわかりにくいと思います。共通する大きな特徴としては4枚ある翅のうち後翅が退化して2枚しかないように見えることです。

ハエ目は地球上あらゆる環境に適応し、極地を除いた様々な環境に存在します。日本でも数千種は確認されていて昆虫の中でも4番目に巨大なグループです。ハエ目は長角亜目(カのグループ)と短角亜目(ハエ・アブのグループ)に大きく分けられます。さらに短角亜目は環縫群(ハエのグループ)と直縫群(アブのグループ)分けられます。

ハエ目の中で一番重要なのが、吸血活動により近年話題のジカ熱、デング熱、チクングニア熱等の感染症を媒介する力です。そしてヌカカ、ブユ、アブなども吸血を行う重要な衛生害虫です。

その他に不衛生な場所から発生し、感染症を媒介するイエバエ、クロバエ、ニクバエ、ショウジョウバエ、植物に寄生して農業被害を起こすタマバエ、ミバエ、ハモグリバエなどがいます。ハエ目は強い正の走光性を示す種類が多く、人に直接加害しないようなユスリカやクロバネキノコバエも夜間照明光に誘引されて室内に飛来し不快がられるほか、工場に侵入して製品への混入問題を起こす危険があります。

「虫」というと一般的には「カブトムシ」や「チョウ」、「トンボ」等が目立つ存在ですが、実は人間の生活環境において一番密接に関わっているのはハエ目ではないかと思えます。(MA)



ハエ目

長角亜目(カ力目)

短角亜目(ハエ亜目)

直縫群

環縫群

👤 今月のオススメ 電池で動くコンパクトな飛翔昆虫防除器 STRONTEC®

これからの時期に虫が飛び始めて不快になることも多くなるでしょう。そんな時に「STRONTEC®」を取り付けてみてはいかがでしょうか？本製品は、液剤を気体ではなく微粒子として拡散させる特許技術を活用することで、より高い防虫効果を発揮するオススメ商品です。

STRONTEC®の有効成分はピレスロイド系のプロフルトリンであり、昆虫に対して速効性がありますが、分解性が高く残留も少ないため、人や環境への安全性が高く、コンビニエンスストア、飲食店、工場、医療機関など非常に幅広い分野でご利用いただけます。「店舗の中に防虫器を設置すると目立ってしまうのでは？」「景観を損ねてしまう！」といった問題も、この STRONTEC®なら一気に解決！本体はコンパクトかつスリムなデザインで壁に設置する際にもネジ止め・両面テープでの設置が可能であり、取り付けラクラク。効果は単3型乾電池2本で最長3ヶ月間持続し、コンセントなどの電源を必要としないため、設置場所も自由自在です。

STRONTEC®に関するお問い合わせはテイソトヨカ(TEL: 052-891-8311)まで！



自然の復元力 Vol. 66

今月は、昆虫の生き残り作戦「群れ」についての続きを書くつもりでしたが、ブラジルや中南米を中心に広く流行しているジカ熱が話題になっていることから、今回は話題を変更し、ジカ熱について話をしたいと思います。

【トピックス「ジカ熱」】

厚生労働省および国立感染症研究所のジカ熱に関する情報によりますと、ジカ熱は 1947 年にウガンダのジカ森林(Zika forest)に生息するアカゲザルから初めて分離された蚊媒介性感染症です。この感染症は現在南米ブラジルやコロンビアなどで流行、同時に乳児に小頭症の増加がみられることで注目されている感染症です。

ジカ熱は、デング熱、チクングニア熱の媒介蚊と同じヤブカ属(*Aedes*)のネッタイシマカ(*Ae. aegypti*)、ヒトスジシマカ(*Ae. albopictus*)などの蚊が媒介します。病原体はデングウイルスやチクングニアウイルスと同様フラビウイルス科フラビウイルス属に属するウイルス(ジカウイルス)ということが分かっていますが、治療薬はまだないということです。



ジカ熱に感染すると麻疹に似た症状が、3~12 日の潜伏期間を経て現れます。主な症状は発熱、関節痛、関節炎、結膜充血、発疹などで、頭痛、筋肉痛、嘔吐、腹痛、下痢などの症状も出る場合がありますが、患者の約 80%は軽い風邪に罹った程度ですみ、数日で治ります。このように感染しても多くは不顕性であるため、知らぬ間に感染者が増大する可能性があります。

何故、ジカ熱が今日大きな話題になっているのかを考えますと、昨年 10 月ブラジルの保健省のコメントが引き金になったと思われる。コメントの内容は、「ジカ熱流行地域を調べると、小頭症の乳児が異常に多いことため、妊婦のジカ熱感染と小頭症の乳児との間に相関性があると思われる。」というものです。小頭症を発症した乳児は、脳の発達を阻害され、知的障害、運動障害、けいれん発作など、命に関わる様々な症状を呈するようになるといいます。小頭症の原因がジカ熱であるとする証拠はまだ断定するまでには至ってないようですが、その可能性が高いことから、WHO や CDC(米国疾病予防センター)などが、妊婦に対し、ジカ熱流行地域への旅行を控えること、また、妊娠予定の女性に対して蚊に刺されないように対策を講じるよう勧告しています。

ところで、我が国では、2013 年よりジカ熱輸入症例 4 例が記録されましたが、幸いなことに国内感染例はまだ確認されておられません。今夏にはブラジルでリオデジャネイロ・オリンピックが開催されることや、ジカ熱流行地の拡大に伴ってその地の人との往来も激しくなると予想されます。不顕性の患者が知らずに感染蚊を増加させ、ジカ熱患者が増える可能性があります。ジカ熱の治療薬がない現在、小頭症の乳児を世に出さないためには、妊婦はジカ熱に感染しないことが絶対条件になります。そのためにはヤブ蚊に刺されないようにすることが重要です。デング熱やチクングニア熱よりもジカ熱が国内で流行する可能性が高いと思われます。乳児を健康に育てるために、妊婦も健全でなくてははいけません。ジカ熱対策には、ヤブ蚊を失くす強力な運動が必要と思われます。私たち PCO の実力発揮のチャンスです。(Sin)

シロアリの季節がやってきます!!!

啓蟄を過ぎてそろそろ虫たちが目覚める時期であるとお話しましたが、それはシロアリに関しても同じです。冬が終われば、活動を停止していたシロアリ達が活発化し始めます。シロアリは木材の中に穿孔し、木材を穴だらけにしてボロボロにしてしまう、木造建屋の宿敵です。鉄筋でも部分的に木材が使われている部分を加害してボロボロにすることがあります。いずれにしても危険なムシです。

弊社ではシロアリの営巣箇所を直接たたくだけではなく、地面に潜伏するシロアリの調査してシロアリ被害拡大の予防も行うことができます。

シロアリ被害でお困りの方、シロアリ調査ご希望の方はテイスートヨカ(TEL: 052-891-8311)まで! (見積無料です)



シロアリに食害された木材



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイスートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析
有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラバト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2 丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市中村区千成通 4 丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小熊町島 4 丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町夕 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
富山営業所	〒939-8261	富山県富山市萩原 42 番地 1	TEL 076-481-6474	FAX 076-481-6471
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上所中 2 丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430